



イラン：専門家会議の議長にモハンマド・ヤズディー師が選出

3月10日、最高指導者を選出する権限を持つ専門家会議の議長に、保守派のモハンマド・ヤズディー師が73票中47票を獲得して選出された。同議長職は、2014年10月にモハンマドレザー・マフダヴィー・キャニー前議長が逝去してから空席となっていた。モハンマド・ヤズディー師は現在の会期が終了する2016年2月まで議長職を務めることになる。

評価

専門家会議とは、国民からの選挙によって選出される86人の議員で構成され、最高指導者を選出・解任する権限を持つ機関である。その権限は憲法によって規定されており、議員の任期は8年となっている（第4期目となる現在の会期のみ10年）。定期会合は半年に一度の頻度で開催されるため、他のポストと兼任している議員も多い。その権限の性質上、イラン政治において非常に重要な機関であるが、最高指導者や大統領による日々の政策について直接判断する役割はない。

モハンマド・ヤズディー師は、1931年生まれのスラーム法学者である。1980年から88年まで国会議員、89年から99年まで司法長官を務めた。専門家会議では1991年から議員を務めている。イラン宗教界に強い影響力を持つ「ゴム神学校教師協会」の代表であり、政治的には保守派と見られている。2006年の第4期専門家会議議員選挙では、有力な保守派政治団体である「闘う聖職者協会（JPM）」と共闘し、会議内で最大勢力を形成した。

今回の専門家会議議長選挙では、ラフサンジャーニー元大統領がモハンマド・ヤズディー師に敗北した点が大きく取り上げられた。1989年から97年まで大統領を務めたラフサンジャーニー師は、1989年から公益判別評議会の議長を継続している他、2007年から2011年に専門家会議議長を務めるなど、イラン政界の中心にいる人物である。ロウハーニー現大統領もラフサンジャーニー師の側近として知られているが、そのラフサンジャーニー師が今回の選挙で敗北したことは、彼を支持する保守穏健派にとって痛手であろう。

なお、一部報道にて、今回議長に選出されたモハンマド・ヤズディー師と強硬派の指導的人物として知られているモハンマド・タギー・メスバーフ・ヤズディー師（通称：メスバーフ・ヤズディー）を混同しているものが散見されるが、両者は別の人物である。メスバーフ・ヤズディー師も1991年から専門家会議の議員を務めているが、両者は政治的には対立関係にある。また、メスバーフ・ヤズディー師は、アフマディネジャード前大統領の精神的支援者としても注目を浴びた。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL：<http://www.mei.j.or.jp/>